

令和5年10月30日

みんなで楽しむコンサート

開催業務委託 報告書

1 事業背景

本事業は、新市民会館開館後の事業実施に向けて行う鑑賞事業の一環であり、誰もが文化芸術に触れる機会の創出を図ることを目的としている。

今回はその初期アプローチとして、障がいのある方とその家族を対象とした音楽コンサートを企画した。

現在、障がいのある方が舞台芸術を鑑賞できるように配慮された公演は非常に少なく、当人やその家族にとって会場に足を運ぶことは心理的、身体的にも困難であるというケースが多く見られる。このような現状を踏まえ、障がいのある方の特性に合わせたプログラム構成にしたり、あらゆる障がいに配慮した鑑賞環境を整えたりするなど、障がいのある方とそのご家族が安心して公演を楽しむことができる場づくりとなるような事業を行った。

2 概要

日 時：令和5年10月21日（土）14：00～15：30

場 所：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
2階アートセンター内ミュージアムホール
（丸亀市浜町80番地1）

対 象：障がいのある方とそのご家族（付き添いの方も可）、障害福祉施設職員

出 演 者：梶谷 祐子（もみの木音楽舎）

村川 陽子

十河 りつ子

企画構成：もみの木音楽舎

3 公演までの流れ

4月10日 打ち合わせ

6月 5日 打ち合わせ（出演者のみ）

7月21日 打ち合わせ（出演者のみ）

7月27日 会場視察（出演者3名）

8月 2日 打ち合わせ（オンライン）

8月10日 打ち合わせ（出演者のみ）

9月22日 打ち合わせ（出演者のみ）

10月上旬 申込案内（障害福祉施設への案内、もみの木音楽舎ホームページやSNSでの周知）
KAGAWAMOVESホームページへの掲載）

10月13日 打ち合わせ（オンライン）

10月19日 打ち合わせ（出演者のみ）

10月21日 公演当日

9：15 会場入り

10：00 リハーサル

14：00 開演

15：30 終演

4 写真

・リハーサルの様子



・ 公演の様子



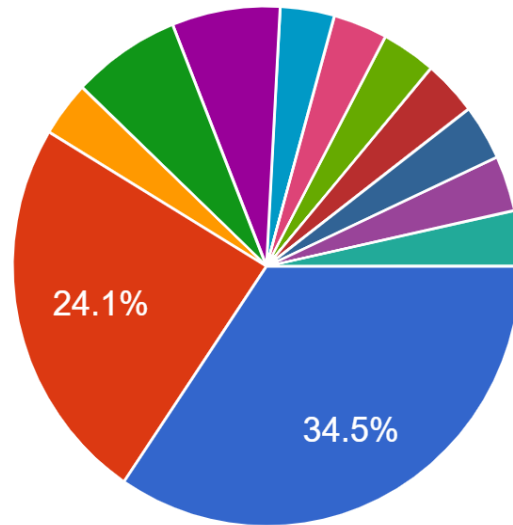


5 アンケートの実施

来場者にアンケートを実施し、29件の回答が得られた

本公演をどのように知りましたか。

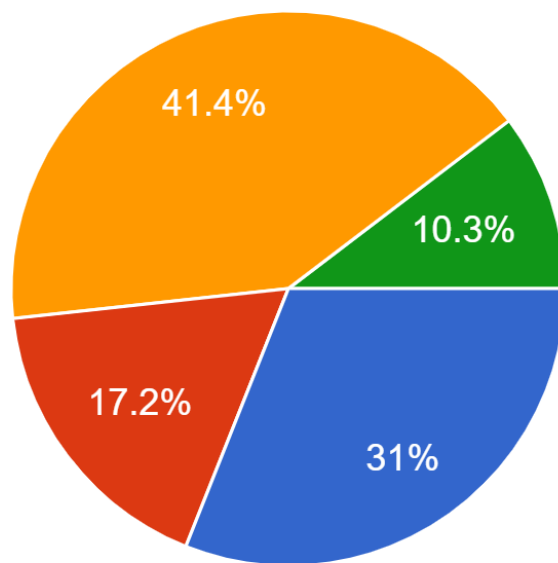
29件の回答



- 通所する施設から案内チラシ
- もみの木音楽舎のホームページ
- KAGAWA MOVESのホームページ
- 通りがかり
- その他
- 市からの案内
- 市役所からのチラシ
- 病院
- 妻から聞いた
- 子どもの通所する施設からチラシもらった。
- 社協
- 友人

日常的にコンサートを鑑賞する機会がありますか。

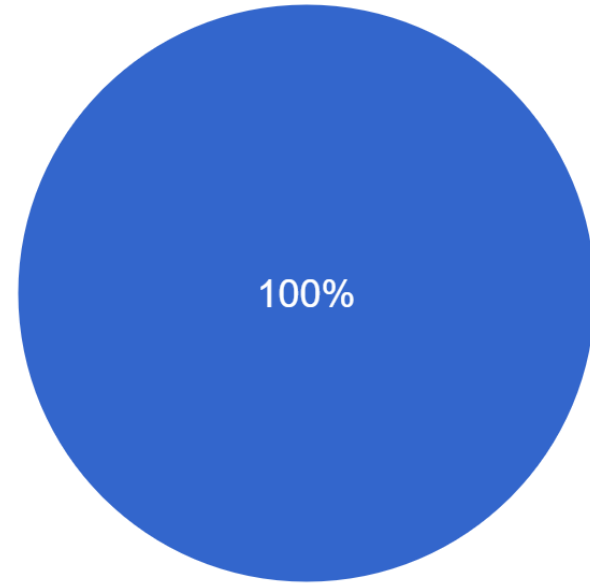
29 件の回答



- しばしば鑑賞する (1年に数回)
- たまに鑑賞する (1年に1回程度)
- めったに鑑賞しない (数年に1回程度)
- 鑑賞したことがない

本公演について、安心して鑑賞できる環境であったと思いますか

29 件の回答



- 思う
- 思わない

「思う」と答えた方は、そう思った理由を教えてください。（任意）

23 件の回答

明るい会場、気配りのスタッフ対応。

なごやかな雰囲気

ゆったりとして、照明も適切

落ち着いた雰囲気

音楽環境が整っている

自由に席を立ったりしてもよいところ

息子が落ち着いていたから

ホールの広さや照明等が安心して鑑賞できた。猪熊美術館にこのような音楽ホールがあることを知らなかったのも、なお良く感じた。もっと広く宣伝してほしい。

自由に声を出しても立ってもいいとチラシに書かれていたのは、参加しやすかったと思います。

会場の雰囲気よかった。スタッフはとても感じがよかった。

障害者が参加したり聞く機会がない

ゆっくり座れて予約ができてよかった。座席の予約もできるようになってほしい。

小さな配慮が嬉しかった。

会場がみんな静かで安心できる環境であったと思った。

楽しい雰囲気、わかりやすい歌ばかりだったから。

静かに聞いた

出入りの際、スタッフの案内が丁寧だった。会場の大きさもちょうどいい大きさに圧迫感がなくていいと思った。

いろいろ案内が丁寧であった。

優しい感じがあふれていました。

とても落ち着きました。和みました。

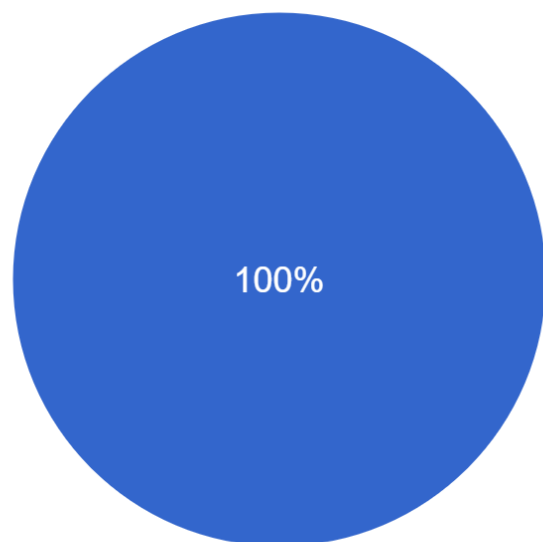
明るい会場で、入退場も自由とされていたから

案内係のスタッフの方がたくさんいらっしゃったので、落ち着いて入場できたから。

リラックスできて、音に癒され落ち着くから。

次回このようなコンサートが開催される場合は、来場したいと思いますか。

28 件の回答



- 来場したい
- 来場しようとは思わない

本公演について、ご感想やご要望がありましたらご自由にご記入ください。

22 件の回答

いいホールでした

ライヤーという楽器は、初めて見、初めて聞きました。心にしみいる演奏、また歌声をありがとうございました。娘（35歳）は身体的・知的障害者（重度）ですが、次回、連れてきたいと思いました。

たまたま入場させてもらい楽しい時間を過ごさせてもらいました。ありがとうございました。

ライヤーは生まれて初めて聞く楽器でした。もっと広めましょう。

みんなで一緒に楽しい曲を1曲でも歌えてよかった。古時計の歌詞があればよかった。とても心が癒されました。楽しかったです。ありがとうございました。

次回も開催を希望します。楽しかったです。唱歌懐かしかったです。

楽しかったです。ありがとうございました。

次回もあるようであれば聴きに来たい。和やかな音楽とリラックスできる時間が良かったです。ありがとうございました。

勤めている病院のグループホームに貼ってたチラシを見て、ライヤーという楽器に興味があり、参加させていただきました。障がいのある人たちも、静かに聞かれてて快い音楽に癒されたことと思います。職場の利用者さんもまたの機会があれば参加したらいいと思いました。これからもがんばって活動されることを願います。本日はありがとうございました。

施設の世話人をしているのですが、次回は施設の利用者の人も連れてきてあげたらと思いました。

ソプラノすごくよかったです。

小さい子供たちも来やすいにほしい

障害児者が、聞いたり参加できる場がないので続けてほしいです。楽器に触れたり一緒に参加できるのが増えてほしい。一緒に歌ったり体を動かしたりがうれしい。

ライヤーという楽器を初めて見て、やさしい音に癒されました。素晴らしいコンサートです。これからもどんどん続けてほしい。

梶谷ゆうこさんの歌がとても上手だと思った。楽器もよかった。

これからも頑張ってください。

とても楽しみにしていました。バスの時間で途中で退席しますがごめんなさい。次回も待っています。

楽しかった

ぜひまた聴きたいです。

ライヤーという楽器を初めて聴きました。障がいを持つ人と一緒に楽しめて心温まる音楽会でした。ライヤーの音色はそれを象徴するような静かで優しいものでした。今後ともご活躍ください。

コンサートに参加できて嬉しかったです。次回も来たいです。

歌っている顔がすごく美しかったです。口の開け方も上手でした。

ピアノの伴奏も上手でした。素晴らしいです。

曲名がわからない曲もあったけど、歌いやすくてよい曲でした。ハーブかと思ったらライヤーという楽器だと初めて知りました。優しい音色が好きです。

音楽しか勝たん！

6 事業の振り返り

(1) 取り組み

本公演では、障がいのある方が落ち着いて楽しめるように配慮したプログラムや鑑賞の環境を準備した。

○プログラムについて

- ・障害のある方も無理なく最後まで楽しめるように、音楽療法的な視点を持って綿密にプログラムの構成を行った。具体的には、楽曲の選択において、一つ一つの楽曲の調性、長さ、テンポ、ジャンル、演奏順、楽器構成、歌と器楽のバランスに配慮したこと、ピアノの他に主要な楽器として、治癒教育や音楽療法においても用いられるライアーという堅琴を用いたこと、集中力を要する聴くことだけに偏らぬよう、プログラムの随所にリラックスできる参加型の演目を散りばめたことである。
- ・長時間の着席が苦手な方もいるため、30分の短いプログラムを2部制で実施したり、間に休憩を入れたりするなど、長時間座っておくことがない環境づくりを行った。

○鑑賞の環境について

- ・ 来場者に安心してお越しいただけるよう「公演中に声が出たり、席を立って動いたりしても大丈夫」「入退場自由」と事前に案内をした。
- ・ 来場者がいつでも休憩できるようカームダウン室を用意した。
- ・ 会場内にスタッフを8名配置し、公演中に来場者の様子を見たり、必要に応じて介助したりできるような環境を整えた。

(2) 効果

- アンケート内の「日常的にコンサートを鑑賞する機会がありますか」という問いに対して「めったにない（数年に1回程度）」「鑑賞したことがない」という回答が半数以上あった。本公演では、そのような公演の鑑賞機会がほとんどない方に来場していただけた。
- アンケート内の「安心して楽しめる環境であったと思いますか」という問いに対して、すべての回答者が「思う」と回答した。そう思った理由には、「会場の雰囲気やスタッフの対応がよかった」という回答のほか、「公演中に声が出たり、席を立って動いたりしても大丈夫とチラシにあったので安心して参加できた」という回答もあった。事前の案内で安心して来場していただけるような環境であることを周知しておいたことが来場につながった。
- 来場者の感想として、ライアーの演奏や参加型のプログラムであったことがよかったという意見が多くあり、対象に併せたプログラム構成にしたことの効果があった。
- 「次回このようなこのようなコンサートが開催される場合は、参加したいと思いますか」という問いに対して、アンケート回答者全員が「来場したい」と回答しており、リピーター獲得に向けて手ごたえがあった。

(3) 今後の事業の進め方や課題について

本事業は、誰もが文化芸術に触れる機会や文化芸術を媒介に、様々な人が知り合い、繋がることのできる社会の創出を図ることを目的としているため、障がいのある方、障がいのない方、子ども、高齢者などあらゆる人々が安心して来場し、公演を鑑賞することができる場づくりを行うことが大切である。今回は初期段階として、障がいのある方とその家族、障害福祉施設職員を対象とした公演を実施したが、今後はあらゆる人々が来場し、楽しむことのできる公演を段階的にでも開催できるような取り組みを考える必要性がある。来場者の中には、普段公演を鑑賞する機会がない方も半数以上いたので、そういった方々にリピーターとして来場していただくような環境づくりも必要である。

また、本公演は、障害福祉施設への案内およびホームページやSNS等の掲載という方法で10月上旬から案内を開始したが、障がいのある方にとって会場に足を運ぶことは心理的、身体的にも困難だと考えている場合がある。そういった方々が来場を決めるまでには時間を要することもあるため、次回は早めの周知を行う必要がある。